

絵本翻訳の変遷についての考察 ——光吉夏弥の絵本翻訳の独自性——

生駒 幸子

【はじめに】

本研究の目的は、第二次世界大戦の終戦（1945年8月）から〈岩波の子どもの本〉（1953年12月）までの約8年間の翻訳絵本における翻訳方法を調査し、絵本の翻訳がどのような変遷を遂げてきたかを考察することである。

光吉夏弥（みつよし・なつや、1904-1989）は、子どもの本の世界において児童書の翻訳者として知られている。筆者はこれまで光吉の業績研究を行ってきたが、彼の業績のなかで最も注目されたのは、戦後の現代絵本の嚆矢となった岩波書店の絵本シリーズ〈岩波の子どもの本〉の編集と翻訳である。〈岩波の子どもの本〉シリーズ（岩波書店、1953年12月～）は、戦後の日本絵本史において海外絵本の翻訳を多く含み既存の絵本という概念を覆したと評され、現代絵本の原点を築いたとされている¹。

この〈岩波の子どもの本〉絵本シリーズの大きな目玉は翻訳絵本であったが、ここで採用された絵本翻訳の方法が特徴的であった。その翻訳方法とは、もともと横書き表記で“左開きヨコ組み”である海外絵本を、日本語の書字方向に合わせて“右開きタテ組み”へ組み直し、絵を逆版で印刷するという特殊な翻訳方法である。日本語における横書きが一般的なものとなった今日から眺めると、この組み直し・絵の逆版はきわめて特殊に見える。現代においては“左開きヨコ組み”である海外絵本は当然、原書の書字方向通り“左開きヨコ組み”で翻訳されるからである。もちろん絵を逆版にする必要も全くない。しかし〈岩波の子どもの本〉が発刊された当時には日本語は縦書きが主流であったため、海外絵本を“右開きタテ組み”へ組み直し、その際に絵本の進行方向に合わせて絵の逆版印刷が必要だと考えるに至ったと推測できる。

光吉の業績研究からは、彼が岩波書店の絵本シリーズ以前に2冊の翻訳絵本においてこの「タテ組みへの組み直し・逆版」の方法を採用していることが明らかになった²。それは戦中に出版された2冊のアメリカ絵本『花と牛』『フタゴノ象ノ子』（ともに筑摩書房、1942年出版）においてである。〈岩波の子どもの本〉の編集は石井桃子（いしい・ももこ、1907-2008）と光吉が中心に行ったということであるが³、光吉は戦中に行った絵本翻訳の試みを戦後の絵本シリーズで再現したといえる。

では、絵本翻訳における「タテ組みへの組み直し・逆版」という方法は、光吉が独自に開発したアイデアだったのだろうか。戦中、特に太平洋戦争がはじまってからは敵国語である英語の使用も厳しく禁じられ翻訳絵本はほぼ皆無に等しい状況であったため、光吉の翻訳した2冊の翻訳絵本も奇跡だと評された⁴。上記のことから、光吉以外にこのような絵本翻訳を採用した前例があったのかを検証するために、海外絵本が比較的流入し易くなった第二次世界大戦の終戦から占領期、その後の岩波書店の絵本シリーズ出版までの約8年の期間に、どのような翻訳絵本が出版されていたのか、特に翻訳絵本の翻訳方法（書字方向・絵の逆版の有無）に着目して調査を行った。この期間の翻訳絵本を調査することにより、戦中から〈岩波の子どもの本〉までの絵本翻訳の背景にある社会文化的文脈、またそのなかで絵本翻訳がどのような変遷をたどり現在の翻訳方法に至ったのかを明らかにできると考えた。

【1. 研究の方法について】

調査対象は、1945年8月から〈岩波の子どもの本〉シリーズが刊行される1953年12月までの現存する翻訳絵本とした。子どもの本は消耗品として取り扱われてきた歴史があるため散逸しているものが多いが、史料として児童書を収集・管理している大阪府立中央図書館国際児童文学館、及び国立国会図書館国際子ども図書館のデータベースを検索した。また戦後占領期において検閲対象となった出版物はプランゲ文庫⁵（アメリカ、メリーランド大学）に所蔵されている。国立国会図書館で画像データの閲覧が可能であるため、それらの資料を研究対象とした。本研究で調査できたものがその時代の翻訳絵本のすべてだとは言い難い側面もあるが、たとえ一部であったとしても出版傾向は浮かび上がってくると考える。

上記の資料のタイトル及び作家・画家、出版社、出版年の書誌をリスト化し、年代順に並べ替え、さらに翻訳の方法（書字方向・絵の逆版の有無）を調査した。

【2. 翻訳絵本と翻案絵本について】

「翻訳絵本」は、厳密に分類すると二種類が考えられる。一つは①海外で絵本として出版されたものを日本語の絵本に翻訳し出版したもの、もう一つは②海外において、もともと絵本としては出版されていない物語（昔話・創作読み物など）をダイジェスト版にする、あるいは改変して、つまり翻案して日本語の絵本として出版した

ものである。どちらも日本では「翻訳絵本」として取り扱われている。本研究においては①を翻訳絵本とし、②を翻案絵本として取り扱う。

【3. 終戦から占領期、その後の社会文化的文脈】

終戦1945年8月から1953年12月までの子どもの本の出版の背景には、以下のような社会文化的文脈が存在したことをふまえておかねばならない。十五年戦争の戦時下・戦後は児童書出版も社会情勢に翻弄される激動の時代であったことは多くの先行研究から明らかになっているが⁶、終戦直後からすべてのメディアにおいて連合国軍最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）による検閲（1945年9月～1949年10月）があり、また翻訳権に関する法律の整備、子どもの福祉・教育に関する法律の公布などの社会の枠組みの変化が、子どもの本の出版に大きな影響を与えていると考えられる。以下におおまかにまとめておく。

1945年	8月	ポツダム宣言の無条件受諾を決定
	9月	GHQ 日本出版法通達・検閲開始
1946年	2月	GHQ 米国書籍の翻訳出版手続についての覚書発表
	11月	日本国憲法公布
1947年	3月	教育基本法・学校教育法公布
	5月	日本国憲法施行
	12月	児童福祉法公布
1948年	5月	GHQ による翻訳物の斡旋（入札）開始
1949年	10月	検閲終了
1950年	4月	GHQ 外国人所有の著作権の存する著作物に関する権利侵害について公布 ⇒翻訳出版の法的整備
1951年	9月	サンフランシスコ講和会議
1952年	4月	対日講和条約発効・占領終了
1953年	8月	学校図書館法公布

主要参考文献：谷暎子『占領下の児童出版物とGHQの検閲——ゴードン W. プランゲ文庫に探る——』共同文化社、2016年
宮田昇『翻訳権の戦後史』みすず書房、1999年

【4. 翻訳絵本における書字方向の調査結果と考察

(1945年8月～1953年12月)】

1945年8月から1953年12月までの翻訳絵本について、翻訳か翻案か、また書字方向がヨコ組みかタテ組みかを調査した結果が表1である。(以後は翻訳絵本と翻案絵本を区別するため、「翻訳絵本」「翻案絵本」を別に表記する)

表1：翻訳・翻案絵本における書字方向の調査結果

年	翻訳・翻案絵本	翻訳●	翻案○	不明	ヨコ組み▲	タテ組み△
1945	0	0	0	0	0	0
1946	28	0	28	0	6	22
1947	26	0	26	0	2	24
1948	32	0	32	0	3	29
1949	36	5	27	4	9	27
1950	43	5	11	27	23	20
1951	13	0	10	3	0	13
1952	10	0	7	3	3	7
1953	11	0	9	2	1	10
計	199	10	150	39	47	152

調査の結果、翻訳絵本、翻案絵本はこの期間に199点は存在していることが確認された(リストは本稿末尾に掲載)。書字方向のヨコ組みは47点、タテ組みは152点であり、圧倒的にタテ組みが多いことが明らかになった。特にこの傾向は、翻案絵本に著しくあらわれている(図1・図2参照)。ただし、翻案絵本にはヨコ組みの翻案絵本もわずかにある(図3・図4・図5参照)。なお、翻訳・翻案絵本全体の出版数は1949年から1950年にかけて若干の増加がみられたものの、1951年からは減少傾向にあったようだ。現物が残っていないだけの可能性もあるが、出版における翻訳にかかわる問題があった可能性も考えられる。

なお、ヨコ組みのものが多くなっている1949年から1950年までの翻訳・翻案絵本には、広島図書の出版した〈社会科おはなしの本〉と〈基礎科学教育叢書〉の2種のシリーズの絵本が含まれている。森本和子、石川晴子の研究によると、広島図書は被爆地である広島において「一九四八年から四九年にかけて「学習編」「伝記創作編」「社会科学編」「童話名作編」の各分野に分類した全七四冊の〈銀の鈴文庫〉や学年別の雑誌「ぎんのすず」などを刊行し、戦後の児童図書出版界で意欲的な出版活動を行って」⁷おり、「アメリカのヴィジュアルな教育的児童書、他に先んじて翻訳紹介しよう

といういわば先端的な出版をおこなっていた」⁸新興の出版社であったという。これらに関しては、ヨコ組みで編集されたことは確認できたが、底本が確認できておらず翻訳か翻案かは判断できないため「不明」とした。



図1：『グリムドウワ オクワシノイヘ』表紙と本文見開き（実業之日本社、1946年4月）
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵



図2：『サクラエホン世界名作絵本 おやゆびひめ』表紙と本文見開き
（東山書房、1948年12月）大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

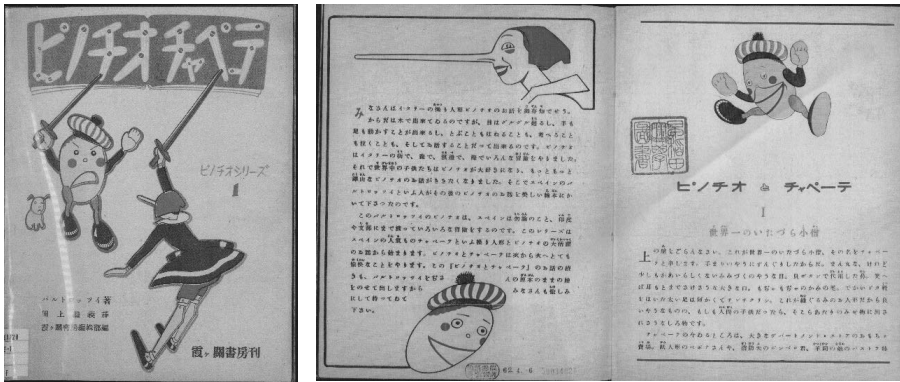


図3：『ピノチオとチャペーテ』〈ピノチオシリーズ1〉表紙と本文見開き（霞ヶ関書房、1946年7月）大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵



図4：『幼なきイエスさま』表紙と本文見開き（中央出版社、1947年10月）メリーランド大学プランゲ文庫所蔵

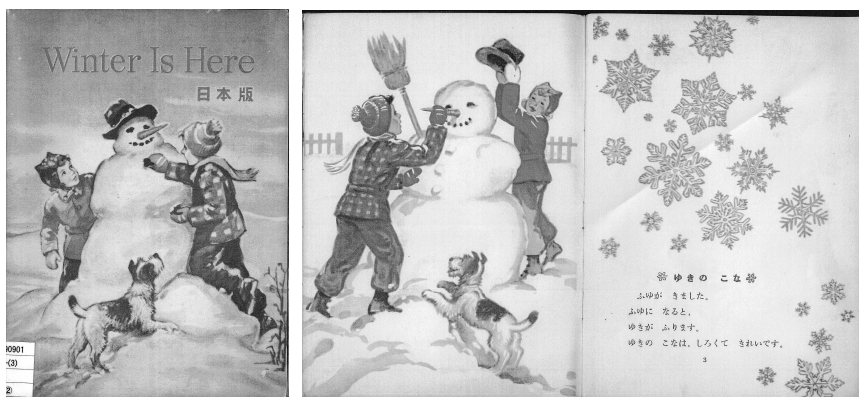


図5：『たのしいふゆ』〈基礎科学教育叢書〉表紙と本文見開き（広島図書、1949年12月）大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

「翻訳絵本」の出版傾向と翻訳方法の特徴を考察する。先述の通り、翻訳絵本は海外で絵本として出版されたもの（オリジナル絵本⁹⁾）を翻訳したものとするが、研究対象期間においては10点が見つかった。10点はすべて1949年、1950年に翻訳出版されているが、これは1949年10月31日に検閲が終了したことや、また国家間での翻訳権の問題をクリアできるようになったためと考えられる。

これらの10冊の原書と推測されるオリジナル絵本を探し、絵本から絵本への翻訳であることを確認できた。書字方向、併せて翻訳の方法を原書と比較して調査したところ、海外絵本を翻訳する際に以下3種の翻訳方法が見出された。

- (A) 「タテ組み型」文章をタテ組みにし、絵はそのまま…3点
- (B) 「ヨコ組み型」原書通り文章をヨコ組み、絵もそのまま（原書尊重型）…5点
- (C) 「タテ組み・逆版型」文章をタテ組みにし、絵を逆版に印刷（〈岩波の子どもの本〉型）…2点

(A)は日本語に特有の縦書きの書字方向を採用した「タテ組み型」、(B)は現在、絵本を翻訳する際に採用されている横書きの書字方向を採用した「ヨコ組み型」で原書のレイアウトを尊重する方法といえる。(C)は〈岩波の子どもの本〉で採用された、書字方向は縦書きを、さらに絵の逆版印刷を伴う「タテ組み・逆版型」である。以下に、3種の分類をまとめておく。

(A) タテ組み型

- (1) 1949年12月『ふしぎな500のぼうし』 シュース博士・著、大森武男・訳、トッパン（図6・図7）
- (2) 1950年4月『うさぎのラバット』 ロバート・ローソン・作、野上弥生子・訳、小峰書店（図8・図9）
- (3) 1950年11月『カモさんおとおり』 ロバート・マックロスキイ・作、磯貝瑤子・訳、日米出版社（図10・図11）



図6：『ふしぎな500のぼうし』表紙と本文見開き（トッパン、1949年12月）
国立国会図書館国際子ども図書館所蔵

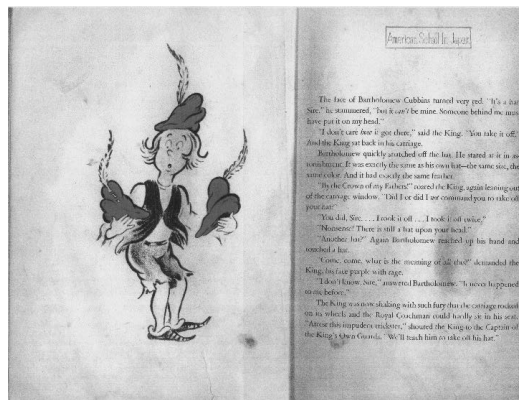
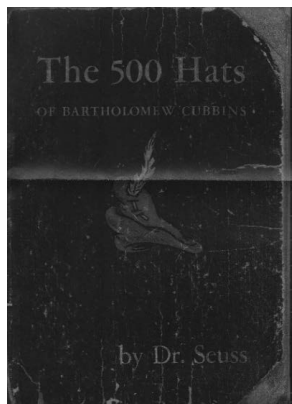


図7：『The 500 Hats of Bartholomew Cubbins』表紙と本文見開き（The Vanguard Press, 1938）白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵



図8：『うさぎのラバット』表紙と本文（小峰書店、1950年4月）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

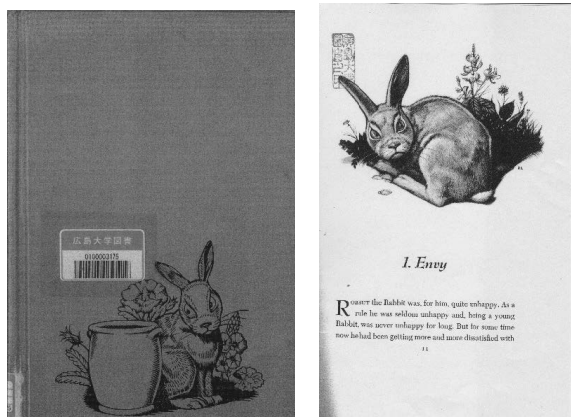


図9：Robbott: A Tale of Tails 表紙と本文（The Viking Press, 1948）
 広島大学中央図書館平和文庫所蔵



図10：『カモさんおとおり』表紙と本文見開き（日米出版社、1950年11月）
 白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

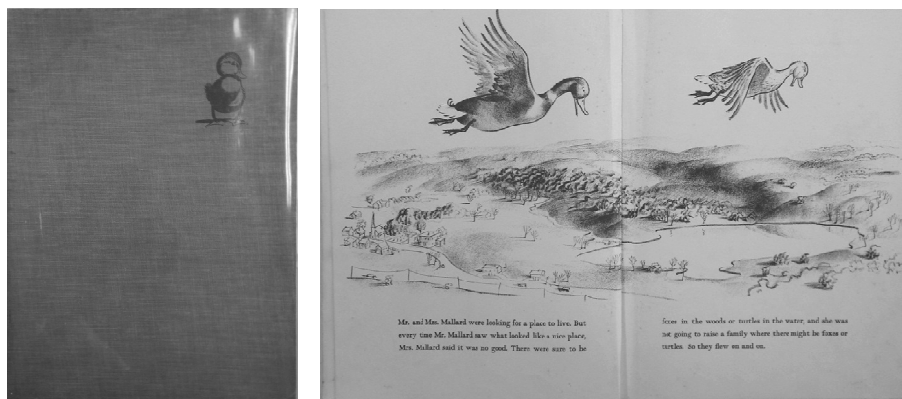


図11：Make Way for Ducklings 表紙と本文見開き（The Viking Press, 1957. First published 1941）
 白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

(B) ヨコ組み型

- (4) 1949年4月『フリップ物語』 ウェズレー・デニス・画と文、櫻沢如一・訳と註、コンパ出版社 (図12)
- (5) 1949年7月『もじゃもじゃペータ おもしろいはなしとおかしなえ』 ドクターハインリッヒ ホフマン・作、ローゼ レツセル・訳、世界文学社 (図13・図14)
- (6) 1949年7月『象ちゃんババアルのおはなし』 ジャン・ド・ブリュノフ・作、石邨幹子・訳、世界文学社 (図15・図16)
- (7) 1950年4月『ねむたいライオンの子』 イーラ・撮影、マーガレット・ワイズ・ブラウン・文、小峰広恵・訳、小峰書店 (図17・図18)
- (8) 1950年6月『どんだんお山をおりてゆく』 エリス・クレッドル・絵と文、高橋さかえ・訳、律文社 (図19・図20)

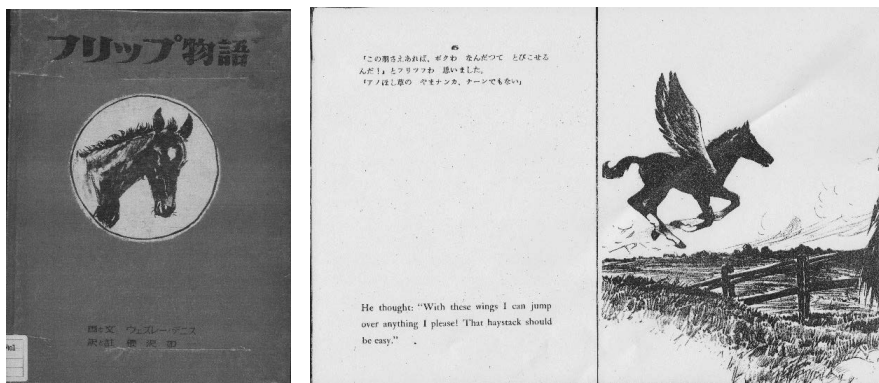


図12：『フリップ物語』表紙と本文見開き（コンパ出版社、1949年4月）
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵



図13：『もじゃもじゃペータ おもしろいはなしとおかしなえ』表紙と本文（世界文学社、1949年7月）大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

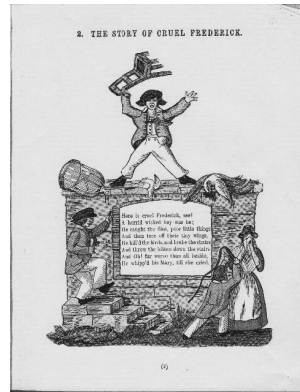


図14： *Struwwelpeter* 表紙と本文（George Routledge & Sons, 出版年不明）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

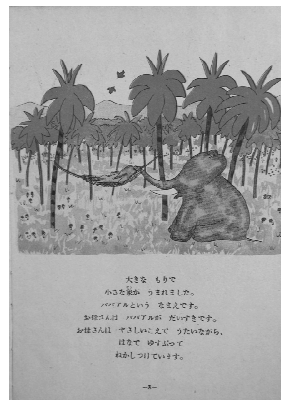
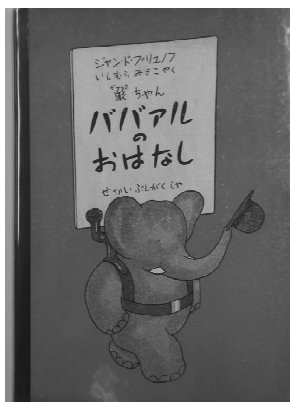


図15：『象ちゃんババアルのおはなし』表紙と本文（世界文学社、1949年7月）
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

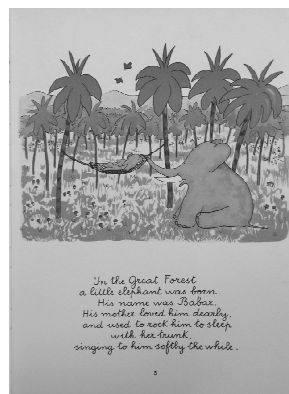
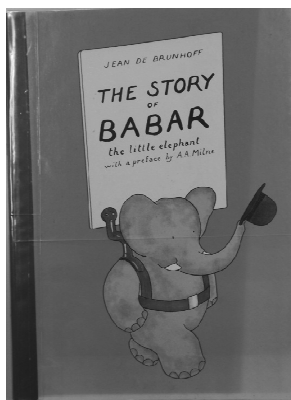


図16： *The Story of Babar: The Little Elephant* 表紙と本文（Methuen, 1978. First published 1934）白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

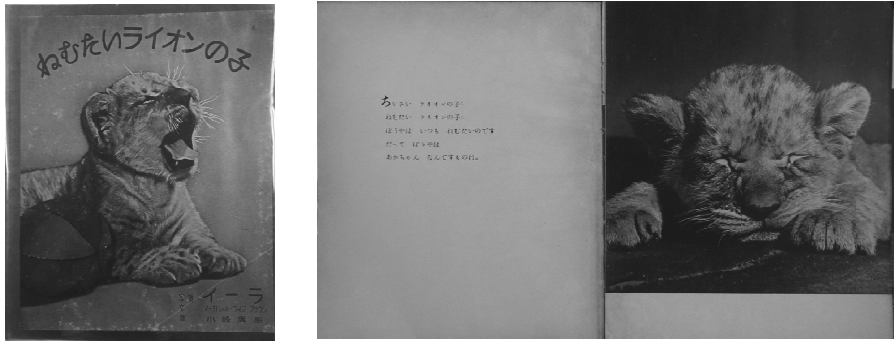


図17：『ねむたいライオンの子』表紙と本文見開き（小峰書店、1950年4月）
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

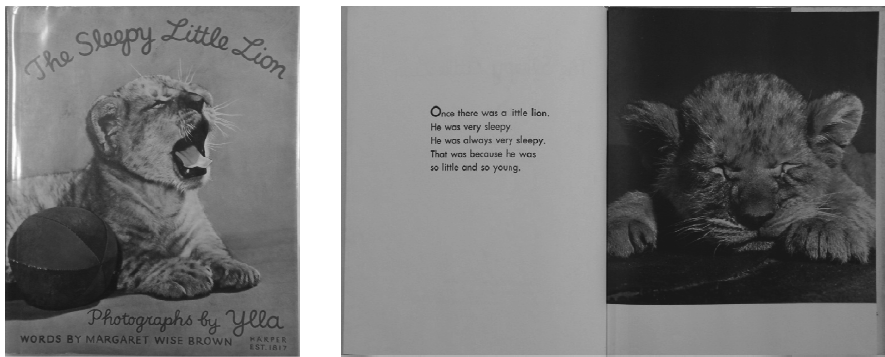


図18：The Sleepy Little Lion 表紙と本文見開き（Harper & Row, 1947）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

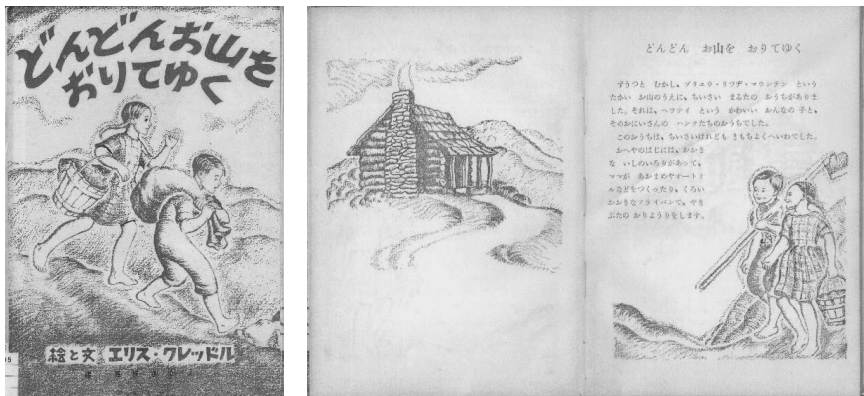


図19：『どんどんお山をおりてゆく』表紙と本文見開き（律文社、1950年6月）
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

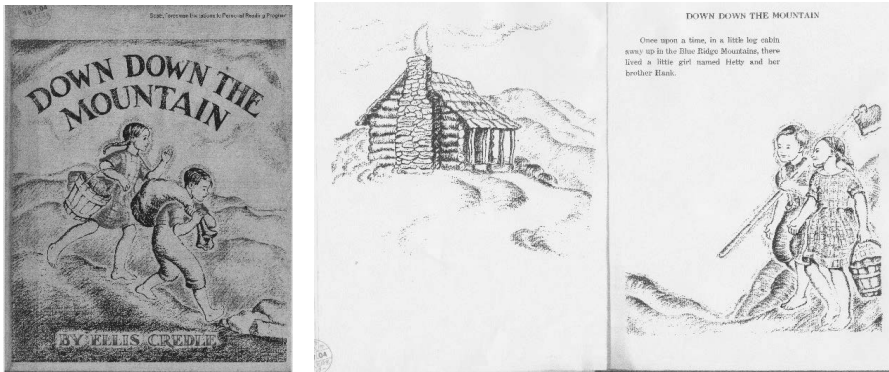


図20 : *Down Down the Mountain* 表紙と本文見開き (Thomas Nelson and Sons, 1961. First published 1934) 白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

(C) タテ組み・逆版型

- (9) 1949年12月『たくさんのお月さま』ジェイムズ・サーバー・作、光吉夏弥・訳、日米出版社 (図21・図22)
- (10) 1950年4月『エブラハム・リンカーン』イングリ・ドオレーア・エドガー・パーリン・ドオレーア・作、進士益太・光吉夏弥・訳、羽田書店 (図23・図24)

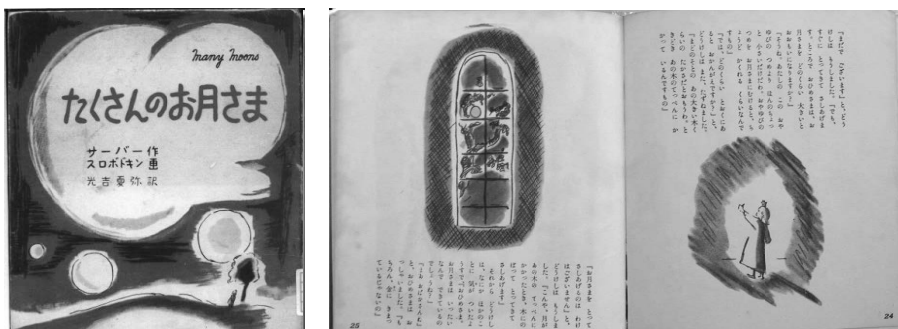


図21 : 『たくさんのお月さま』表紙と本文見開き (日米出版社、1949年12月) 大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

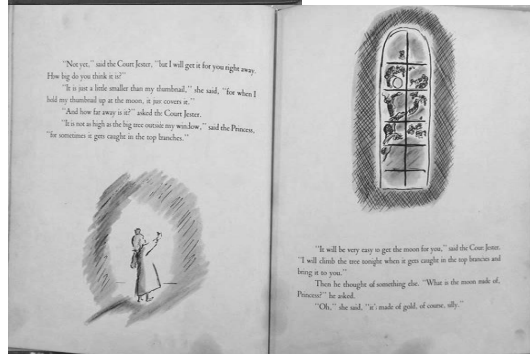
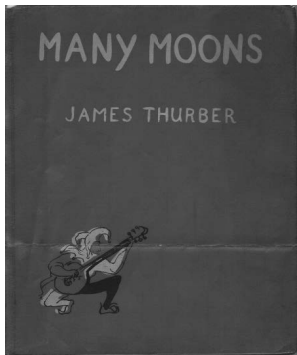


図22： *Many Moons* 表紙と本文見開き（Harcourt, Brace, 1943）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵



図23：『エブラハム・リンカーン』表紙と本文見開き（羽田書店、1950年4月）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

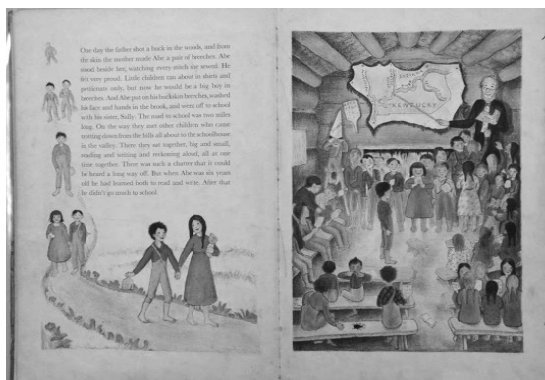
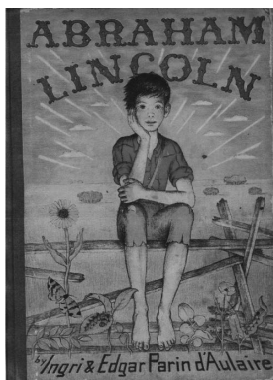


図24： *Abraham Lincoln* 表紙と本文見開き（Doubleday, Doran, 1939）
白百合女子大学児童文化研究センター光吉文庫所蔵

【5. 海外絵本の翻訳における組み直し】

調査対象期間においては(C)「タテ組み・逆版型」の翻訳方法は、光吉の翻訳した2冊のみで採用されていた。〈岩波の子どもの本〉の海外絵本翻訳においても(C)の翻訳方法が採用されていたが、この絵本翻訳の方法は図25の通りである。もともと絵本として翻訳された海外絵本は“左開きヨコ組み”であるが、タテ組みに組み直しを行うと同時に、絵の進行方向を右開きに合わせるために、絵を逆版にして印刷している。

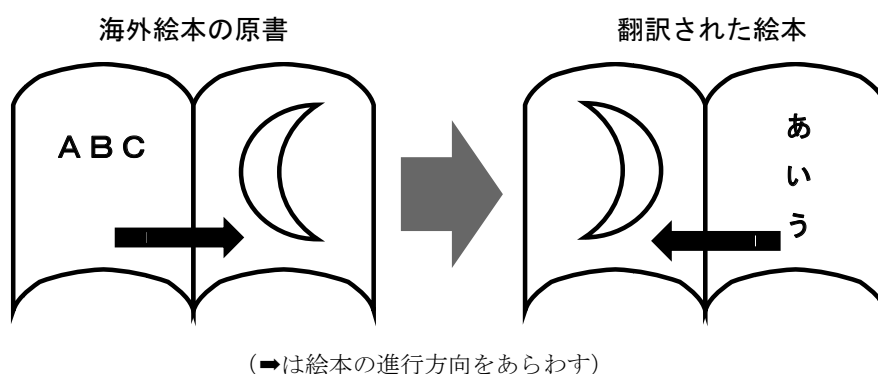


図25：〈岩波の子どもの本〉で採用された絵の逆版印刷を伴う「タテ組み・逆版型」翻訳

光吉が戦中にも(C)「タテ組み・逆版型」の方法を採用して『花と牛』、『フタゴノ象ノ子』2冊の絵本を翻訳していることから、〈岩波の子どもの本〉編集以前に既に光吉が独自に編み出していた方法の可能性がきわめて高いといえるだろう。

絵本はページをめくることにより物語が展開すること（絵の連続性）、絵本の絵も語る機能を持っているために進行方向がある（絵の進行方向）ということに着眼している点において、光吉は絵本の特徴をよく理解していたといえる。視覚表現としての絵本の特徴、絵の機能を失わせないためにこの翻訳方法を思いついたと推測される。

編集担当であった光吉は、〈岩波の子どもの本〉発刊の頃を思い出して“右開きタテ組み”への組み直しについて以下のように述べている¹⁰。

その後、原本どおり、左開き、ヨコ組のほうが、原本に忠実であるかのように思う傾向が翻訳絵本の出版にみられたが、オールひらがな、わかち書きのヨコ組はなんとしても読みづらいし、欧文文字とひらがな活字とでは、いくら同じヨコ組でも、タイポグラフィはまるきり別ものになってしまうのだから、私はや

はり、右開き、タテ組に再編集して、子どもたちに読みやすいかたちで提供するほうが親切だと思っている。

また石井桃子・光吉とともに〈岩波の子どもの本〉の編集に携わったいぬいとみこ(1924-2002)も、このことに関して以下のように述べている¹¹。

岩波少年文庫の創刊は1950年(昭和25年)だったが、それ以前に有名な少年少女雑誌『銀河』が姿を消していた。『銀河』が子どもたちに親しまれなかった一因が、斬新な左びらき『横組み』にあったので、1953年に幼い子どもの本を作る時、翻訳ものでも右びらき縦組みにすることに、たいした抵抗はなかった。

以上の証言から、〈岩波の子どもの本〉の編集者らが日本語はタテ組みにするのが当然だという考えを持っていたことがうかがえる。雑誌『銀河』の創刊号(1946年10月)のヨコ組み(図26)は読者に不評であったため、すぐに(1947年7月)タテ組みに変更されたという。このことから、当時の子どもの本の出版では、タテ組みにするのが一般的であったことがうかがえる。

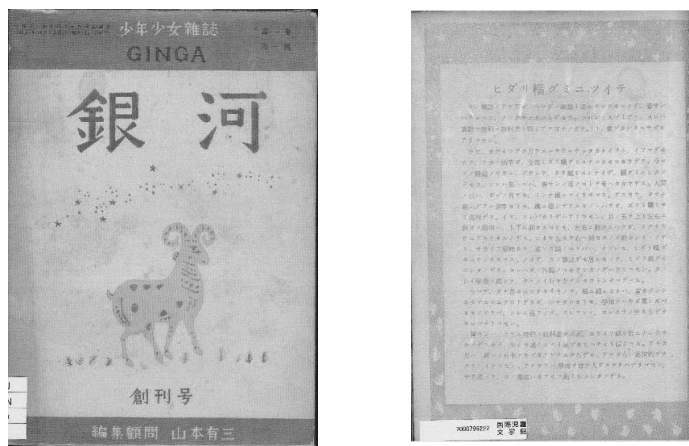


図26：『銀河』創刊号の表紙とヨコ組み本文(新潮社、1946年10月)
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵

日本語の書字方向における縦書きと横書きの歴史的考察をおこなった屋名池誠は、『横書き登場——日本語表記の近代——』¹²において、「効率性・合理性を求めて「左横書き専用化」はすでに戦前からビジネス文書の世界ではじまっていたが、戦後これが他の分野にも波及してきた。特に「公」の世界での動きが目立つ」とし、1947年の六三三制の新制教育制度の発足以降に民主主義・合理主義を標榜する教科としての社

会科の教科書を文部省（民間会社のものが間に合わなかったため）が作成し、それらが横書きであったことを指摘している。さらに官庁用語の平易化、合理化を進めるため1946年以降に施策が講じられたが、その一環として1949年には内閣依命通達「公用語の基準について」により公用文は「一定の猶予期間を定めてなるべく広範囲にわたって、左横書きとする」ことになったと述べている。戦後まもなく広がり始めた横書きであったが、広く一般的になるにはかなりの時間を要したのではないかと推察できる。

【おわりに】

第二次世界大戦の終戦から〈岩波の子どもの本〉までの約8年間に出版された199冊の翻訳絵本・翻案絵本の調査から、翻訳絵本においては(A)「タテ組み型」、(B)「ヨコ組み型」、(C)「タテ組み・逆版型」の3種があり、また翻案絵本においてはほとんどが(A)「タテ組み型」であったことが明らかになった。

そのうち(C)「タテ組み・逆版型」が採用された翻訳絵本は2冊のみであり、いずれも光吉が翻訳・編集を手掛けていた。光吉は戦中であった1942年に出版した2冊の翻訳絵本においても同様の「タテ組み・逆版型」を採用して編集していることから、これは光吉が編み出した独自のアイデアであった可能性が高い。この方法を1953年12月にはじまる〈岩波の子どもの本〉の翻訳絵本でも採用したと考えられる。光吉の発案した絵本翻訳の方法には、絵本における「絵の連続性」「絵の進行方向」の発見があり、視覚表現としての絵本の特質を見事にとらえている。

この時代の翻訳絵本のヨコ組み、タテ組みの試行錯誤を経て、時代が日本語の横書きを受け容れていくのに応じて、1960年からはじまった福音館書店の〈世界傑作絵本〉シリーズでは、原書通りの書字方向が保たれる絵本翻訳が主流になっていった。時代の限界を抱えていた「タテ組み・逆版型」が克服されたのである。

戦後の絵本史は、〈岩波の子どもの本〉からはじまる印象が強いが、本研究での資料調査を通して、戦後まもない時期に出版された絵本は「仙花紙絵本」といわれ、出版に必要な資材も乏しく、仙花紙と呼ばれる粗悪な紙でしか印刷ができなかったにもかかわらず、多様で可能性に満ちた翻訳絵本が出版されていたことを知った。実際に絵本を手に取り、またプランゲ文庫資料データの閲覧などから実感することができた。

今後の課題としては、ごくわずかだったとされている戦中の翻訳絵本について現存するものをたどり翻訳の方法や出版の背景を明らかにしていくことである。また児童書出版の背景に横たわる戦中の社会文化的文脈はきわめて複雑であるが、そのような社会的枠組みの中で絵本がどのようなものであったかを見極めていきたい。

【注】

- 1 西田良子「絵本」『日本児童文学大事典 第2巻』大阪国際児童文学館編、大日本図書、1993年（pp.327-329）、鳥越信「序章 仙花紙絵本の時代——一九四五～五〇年」『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ——戦後絵本の歩みと展望——』鳥越信編、ミネルヴァ書房、2002年（pp.1-13）において、〈岩波の子どもの本〉の日本絵本史における位置づけが論じられている。
- 2 生駒幸子「光吉夏弥の絵本翻訳——絵本翻訳における“右開きタテ組み”をめぐって——」『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』第16号、白百合女子大学児童文化研究センター、2013年（pp.1-22）
- 3 光吉夏弥「岩波の子どもの本（一）——その発行のころのことども——」『月刊絵本』第1巻第1号、盛光社、1973年5月（pp.80-84）・「岩波の子どもの本（二）——その発行のころのことども——」『月刊絵本』第1巻第2号、盛光社、1973年6月（pp.112-115）に出版の詳細が語られている。
- 4 瀬田貞二は光吉が戦中に翻訳した絵本を評して「戦争は急速に進み、外国文の使用そのものも不可能になっていった。そのなかで、清らかな奇蹟に近い出版物は、光吉夏弥が新興の筑摩書房によって企画した「世界傑作絵本」の三冊であった」と述べている。「英米児童文学を日本はどうとりいれたか 4 昭和前期」瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝夫『英米児童文学史』研究社出版、1971年（pp.44-45）
- 5 1945年8月の終戦以降、日本は連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の占領下に置かれた。占領政策の一環としてあらゆるメディアの検閲が行われたが、この検閲資料がメリーランド大学に「ゴードン W. プランゲ文庫」として保管されている。検閲期間は1945年9月から1949年10月の約4年間である。検閲資料に含まれる児童書を谷暎子がかかわり整理し、現在、国立国会図書館内においてデータの閲覧が可能である。プランゲ文庫児童書に関しては、谷の長年にわたる緻密な研究の積み重ねをまとめた『占領下の児童出版物とGHQの検閲——ゴードン W. プランゲ文庫に探る——』（共同文化社、2016年）に詳しい。
- 6 浅岡靖央により戦中、児童文化も統制を免れなかったことが詳細に検証されている。『児童文化とは何であったか』つなん出版、2004年
- 7 石川晴子「第2章 占領下の翻訳絵本——アメリカからの新しい絵本の波」『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ——戦後絵本の歩みと展望——』鳥越信編、ミネルヴァ書房、2002年（p.48）
- 8 前掲7に同じ（p.49）

- 9 「オリジナル絵本」とは翻訳絵本を分類する際に、鳥越信が使用した言葉である（『カラー版 小さな絵本美術館』ミネルヴァ書房、2005年、p.86）。本稿で述べた通り、「翻訳絵本」として取り扱われているものは①②とあるため、①を明確に示す言葉として使用したと考えられる。
- 10 前掲3に同じ
- 11 いぬいとみこ 「『^(マ)岩波子^(マ)どもの本』こぼればなし」『月刊絵本』第2巻第2号、盛光社、1974年2月（pp.21-26）
- 12 屋名池誠『横書き登場——日本語表記の近代——』岩波書店（岩波新書）、2003年

【絵本原書】

- Dr. Seuss. *The 500 Hats of Bartholomew Cubbins*. New York: The Vanguard Press, 1938.
- Lawson, Robert. *Robbut: A Tale of Tails*. New York: The Viking Press, 1948.
- Robert, McCloskey. *Make Way for Ducklings*. New York: The Viking Press, 1957.
First published 1941.
- Hoffmann, Heinrich. *Struwwelpeter*. George Routledge & Sons, n.d.
- Brunhoff, Jean de. *The Story of Babar: The Little Elephant*. London: Methuen, 1978.
First published 1934.
- Brown, Margaret Wise, and Ylla. *The Sleepy Little Lion*. New York: Harper & Row, 1947.
- Credle, Ellis. *Down Down the Mountain*. New York: Thomas Nelson and Sons, 1961.
First published 1934.
- Thurber, James, and Louis Slobodkin. *Many Moons*. San Diego: Harcourt, Brace, 1943.
- D'Aulaire, Ingri, and Edgar Parin D'Aulaire. *Abraham Lincoln*. New York: Doubleday, Doran, 1939.

【主要参考文献】

- 谷暎子『占領下の児童出版物とGHQの検閲——ゴードン W. プランゲ文庫に探る——』共同文化社、2016年
- 三浦精子「児童文学「ぎんのすず」（広島図書）を中心に」『占領期の出版メディアと

- 検閲——戦後広島の文芸活動——』広島市文化協会文芸部会編、勉誠出版、2013年（pp.71-105）
- 鳥越信・長谷川潮編著『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』ミネルヴァ書房、2012年
- 三宅興子「『絵本』の『翻訳』史・試論」『図説 児童文学翻訳大事典第4巻【翻訳児童文学研究】』児童文学翻訳大事典編集委員会編、大空社、2007年（pp.11-29）
- 松居直「覚え書・絵本の翻訳出版」『図説 子どもの本・翻訳の歩み事典』子どもの本・翻訳の歩み研究会編、柏書房、2002年（pp.220-223）
- 酒井晶代「第3章 過渡期の絵本叢書——新潮社〈世界の絵本〉」『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ——戦後絵本の歩みと展望——』鳥越信編、ミネルヴァ書房、2002年（pp.61-79）
- 中西美季「第6章 大衆絵本の動向」『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ——戦後絵本の歩みと展望——』鳥越信編、ミネルヴァ書房、2002年（pp.126-143）
- 石川晴子「第15章 翻訳絵本の十五年間——西から東から」『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅱ——15年戦争下の絵本——』鳥越信編、ミネルヴァ書房、2002年（pp.272-288）
- 中村百合子・三浦太郎「占領期における教育使節団からの『本の贈り物』」『図書館文化史研究 No.18』日本図書館文化史研究会、2001年（pp.43-77）
- 宮田昇『翻訳権の戦後史』みすず書房、1999年
- 森本和子「占領下の翻訳絵本と教育——広島図書について——」『広島市公文書館紀要』第22号、広島市公文書館、1999年（pp.69-93）
- 藤本朝巳『絵本はいかに描かれるか 表現の秘密』日本エディタースクール出版部、1999年
- 江藤淳『閉された言語空間——占領軍の検閲と戦後日本』文藝春秋（文春文庫）、1994年
- 「教育使節団から贈られた児童図書の目録」『季刊新児童文化 第二冊』国民図書刊行会、1947年（pp.175-194）

【参考資料】

- 石川晴子「占領期の翻訳絵本 絵本の翻訳を考える／『たくさんのお月さま』」『日本保育学会大会発表論文集』第57号、日本保育学会大会準備委員会、2004年（pp.60-61）
- 「日本の絵本・歴史的考察 占領下の翻訳絵本／入札制度」『日本保育学会大会発表論文集』第56号、日本保育学会大会準備委員会、2003年（pp.626-627）
- 「日本の絵本／歴史的考察 占領期の翻訳絵本・『ねむたいライオンの子』の場

合』『日本保育学会大会発表論文集』第55号、日本保育学会大会準備委員会、2002年 (pp.338-339)

——「日本の絵本、歴史的考察Ⅵ 占領下の翻訳絵本／ウォルト・ディズニー『白雪姫と七人の小びと』』『日本保育学会大会研究論文集』第53号、日本保育学会大会準備委員会、2000年 (pp.592-593)

——「日本の絵本／歴史的考察Ⅴ 翻訳絵本：『どんどんお山をおりてゆく』の場合』『日本保育学会大会研究論文集』第52号、日本保育学会大会準備委員会、1999年 (pp.610-611)

——「日本の絵本・歴史的考察Ⅳ 占領下の翻訳絵本／ウェズレー・デニス作『フリップ物語』の場合』『日本保育学会大会研究論文集』第51号、日本保育学会大会準備委員会、1998年 (pp.400-401)

——「日本の絵本：占領下の翻訳絵本 ドクター・スース『ふしぎな500のぼうし』』『日本保育学会大会研究論文集』第50号、日本保育学会大会準備委員会、1997年 (pp.514-515)

——「ドオレーア夫妻作『エブラハム・リンカーン』をめぐって 日本の絵本・歴史的考察(Ⅱ)』『日本保育学会大会研究論文集』第49号、日本保育学会大会準備委員会、1996年 (pp.702-703)

(本研究は、「光吉夏弥の絵本翻訳——絵本翻訳における“右開きタテ組み”をめぐって——」(『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』第16号、白百合女子大学児童文化研究センター、2013年)及び「終戦から〈岩波の子どもの本〉シリーズ以前の翻訳絵本の検討 1945年8月～1953年12月」(第21回絵本学会大会研究発表、2018年6月3日、於・札幌大谷大学)を発展させたものである。)

【謝辞】

資料閲覧にお力添えくださった白百合女子大学児童文化研究センター、大阪府立中央図書館国際児童文学館の皆様にご心より感謝申し上げます。

1945年8月～1953年12月 翻訳・翻案絵本の書式調査

出版年	月	翻訳● 翻案○	書字方向 タテ△ ヨコ▲	絵本タイトル ()内はシリーズ名	作家(翻訳者)・画家など	出版社	所蔵
1946	2	○	△	イソップ繪噺(世界名作繪噺 第一輯)	立野道正・絵	井上通信英語学校	ブランゲ文庫
1946	4	○	△	グリムドワウ オクワシノイヘ	マツダフミヲ・絵	実業之日本社	国際児童文学館
1946	4	○	△	コビトノオクニ (THE STORY OF FAIRYLAND)	野邊地天馬・文、山田稔・絵	愛育社	国際児童文学館
1946	5	○	△	イワンノチエ (世界童話絵本・ロシア)	吉川江子・文	岩井書店	国際児童文学館
1946	6	○	△	エホインソップ	横山正雄・文、黒崎義介・絵	東西社	国際児童文学館
1946	6	○	△	ジャックトマメノキ(コドモブンコ NO.1)	塩谷太郎・文、赤松俊子・画	アソカ書房	ブランゲ文庫
1946	6	○	△	シンデリラ(世界童話絵本・フランス)	奈街三郎・文、斎藤長三・画	岩井書店	ブランゲ文庫
1946	6	○	△	イソップエホン 上巻	中尾彰	新泉社	ブランゲ文庫
1946	7	○	▲	ピノチオとチャペーテ(ピノチオシリーズ1)	バルトロツツイ・著、田上継義・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1946	7	○	▲	北極探検(ピノチオシリーズ3)	バルトロツツイ・著、園武久・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1946	7	○	△	白雪姫(おともだちシリーズ グリム童話輯第一巻)	村岡花子・編、若林敏郎・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	8	○	▲	ピノチオと女王様(ピノチオシリーズ4)	バルトロツツイ・著、永田寛定・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1946	8	○	▲	たのしいお国(ピノチオシリーズ5)	バルトロツツイ・著、園武久・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1946	8	○	△	赤づきん(おともだちシリーズ グリム童話輯第二巻)	村岡花子・編	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	9	○	▲	ピノチオ印度へ行く(ピノチオシリーズ6)	バルトロツツイ・著、永田寛定・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1946	9	○	△	ピノチオ	新井八郎	民芸社	ブランゲ文庫
1946	9	○	△	オヤユビ姫(世界名作繪噺第二輯)	内山保・文、松野一夫・画	井上通信英語学校	ブランゲ文庫
1946	9	○	△	くつをはいた猫(おともだちシリーズ グリム童話輯第三巻)	村岡花子・編	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	10	○	△	童話絵本 長ぐつをはいた猫	船木枳郎・文、三上信次・画	森の子供社	国際児童文学館
1946	11	○	▲	海底旅行(ピノチオシリーズ10)	バルトロツツイ・著、園武久・訳	株式会社霞ヶ関書房	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	お菓子の家(おともだちシリーズ グリム童話輯第五巻)	村岡花子・編、若林敏郎・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	黄金の鳥(おともだちシリーズ グリム童話輯第四巻)	村岡花子・編、若林敏郎・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	白雪姫(おともだちシリーズ グリム童話)(1946.7出版物とは異なる絵本)	村岡花子・編、若林敏郎・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	フランダーズの犬(絵入世界童話)	塚原健二郎・文、三芳佛吉・画	岩井書店	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	オヤユビヒメ(童話絵本)	船木枳郎・文、花野原芳明・画	森の子供社	ブランゲ文庫
1946	11	○	△	おやゆび姫(おともだちシリーズ アンデルセン童話第一巻)	村岡花子・編、松本勝治・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1946	12	○	△	ジャックトマメノ木(フタバノエホン)	長谷川露二・絵	二葉書店	ブランゲ文庫
1946	12	○	△	コユビヒメ(童話絵本)	新井八郎	民芸社	ブランゲ文庫
1947	1	○	△	みにくいあひるの子(おともだちシリーズ アンデルセン童話第二巻)	村岡花子・編、松本勝治・絵	国際図書出版株式会社	ブランゲ文庫
1947	2	○	▲	肥っちょのお国(ピノチオシリーズ)	バルトロツツイ・著、永田寛定・訳	霞ヶ関書房	国際児童文学館
1947	2	○	△	ジャックトマメノキ(将美の絵本)(童話名作集)	川口文二夫・文、武田将美・画	光洋出版	国際児童文学館
1947	3	○	△	ウサギトカメ	浦賀司郎・文、藤澤瀧雄・画	二葉書房	ブランゲ文庫
1947	4	○	△	おやゆび姫(名作童話絵ばなし)	小春久一郎・文、樋口富麻呂・絵	昭和出版	国際児童文学館

1947	4	○	△	ウクレヴァイオリン (将美の絵本) (童話名作集)	武田将美・画・文	光洋出版	国際児童文学館
1947	4	○	△	おやゆび姫 (名作童話絵ばなし)	小春久一郎・文、樋口富麻呂・画	昭和出版	ブランゲ文庫
1947	5	○	△	ブレーメンの音楽師 (名作童話繪ばなし)	ヤーコブ・グリム・作	昭和出版	国際児童文学館
1947	5	○	△	グリム童話 赤い帽子	永井保・絵・文、J.グリム・共作	保育社	国際児童文学館
1947	5	○	△	おやゆびひめ (家の光えほん3)	大木雄二・文、田中良・画	社団法人全国農業会家の光協会	ブランゲ文庫
1947	5	○	△	おとぎ絵物語	新井五郎・文・画	雲南書院	ブランゲ文庫
1947	6	○	△	ロビンソン・クルーソー	デフォー・原作、村山知義・著	朝日新聞社	国際児童文学館
1947	6	○	△	ブレーメンのがくたい (グリム童話絵本)	西山敏夫・編、川上四郎・絵	二葉書房	ブランゲ文庫
1947	6	○	△	ガリバノタビ	(作家名・画家名の表記なし)	ひばり書房	ブランゲ文庫
1947	7	○	△	こびとのやけど (霞ヶ関の絵本1 [すこっところらんの童話より])	久保孝雄・文・画	霞ヶ関書房	ブランゲ文庫
1947	8	○	△	うさぎとかめ (新お伽噺絵本)	佐藤長生・作	大川屋書店	ブランゲ文庫
1947	9	○	△	イエスさまとお弟子 (エルム社の絵本)	賀川豊彦・作詞、平澤定治・画	エルム社	ブランゲ文庫
1947	10	○	▲	幼なきイエズさま	黒沢武之輔	中央出版社	ブランゲ文庫
1947	10	○	△	カラストミツガメ	岩村信二・文、渡邊加三・画	愛育社	ブランゲ文庫
1947	10	○	△	アンデルセンのおやゆび姫	奥山儀八郎・文・画	薔薇社	ブランゲ文庫
1947	11	○	△	新イソップえほん (ふたばのえほん)	佐藤長生・画	二葉書店	ブランゲ文庫
1947	11	○	△	白雪姫と七人のこびと	しばのたみぞう・文、あらいごろう・絵	春江堂	ブランゲ文庫
1947	12	○	△	グリム童話 太鼓たたき	三浦アンナ・訳・画	比叡書房	国際児童文学館
1947	12	○	△	イソップ絵噺 (大濤社の名作絵本)	相沢みつら・文・画	大濤社	ブランゲ文庫
1947	12	○	△	しらゆきひめ (主婦之友の絵本7)	三芳悌吉・文・絵	主婦之友社	ブランゲ文庫
1947	12	○	△	こどものイエスさま	主教 八代斌助、鈴木さが子・共編	ミカエル出版社	ブランゲ文庫
1948	1	○	△	ポストマニ (世界童話絵本・インド)	柴野民三・著、白木喬・画	岩井書店	国際児童文学館
1948	1	○	△	おやゆびトム (あおぞらえほん・名作シリーズ)	楠山正雄・編、黒崎義介・絵	小峰書店	ブランゲ文庫
1948	1	○	△	ピノチオ (家の光えほん4)	柏熊達生・文、柏原覚太郎・画	社団法人家の光協会	ブランゲ文庫
1948	1	○	△	ふしぎなランプ (サクラエホン アラビヤン・ナイト)	玉井徳太郎・作	東山書房	ブランゲ文庫
1948	2	○	△	アリババ物語 (名作お伽噺アラビヤンナイト)	相馬泰三・文、新井八郎・画	雲南書院	ブランゲ文庫
1948	3	○	△	宝島と海賊 (世界名作絵本クラウンブック「宝島」より)	月原橙一郎・文、三芳悌吉・絵	東山書房	ブランゲ文庫
1948	4	○	△	べにバラしろバラ (あおぞらえほん・名作シリーズ)	楠山正雄・編、井口文秀・絵	小峰書店	ブランゲ文庫
1948	4	○	△	火打箱 (アンデルセン童話)	奈街三郎・文、畑照夫・画	泰光堂	ブランゲ文庫
1948	5	○	△	ガリヴァー旅行記 (ジョナサン・スウィフトの童話より、パラマウント映画)	(作家名・画家名の表記なし)	セントラル宣伝社	ブランゲ文庫
1948	5	○	△	新イソップ物語1	伊藤神章・作・絵	文徳社	ブランゲ文庫
1948	5	○	△	ねずみのそうだん (イソップ絵本)	西山敏夫・文、茂田井武・絵	童画書房	ブランゲ文庫
1948	6	○	△	黄金の鳥 (ブラックナイト)	加太こうじ・絵・画	南書院	ブランゲ文庫
1948	7	○	△	新イソップ物語2	伊藤神章・作・絵	文徳社	ブランゲ文庫
1948	7	○	△	ヘンデルとグレーテル (主婦之友の絵本12)	三芳悌吉・著	主婦之友社	ブランゲ文庫
1948	7	○	△	ニルスの冒険 (面白漫画絵本)	岡田晟・作・画	児童図書出版社	ブランゲ文庫
1948	7	○	△	ガリバー旅行記 (極彩色童話絵本 こびとじまのまき)	冬木迪夫・文、立野道正・絵	有限会社光文堂	ブランゲ文庫
1948	8	○	△	ピノッキオ (あやつり人形大劇場) (朝日新聞社の絵本)	コロディ・原作、村山知義・文・画	朝日新聞東京本社	国際児童文学館

1948	8	○	△	ありときりぎりす	近藤蟹男・作	京菱商会	ブランゲ文庫
1948	10	○	△	エルザちゃん	中島光子・文、新井八郎・画	民芸社	ブランゲ文庫
1948	10	○	△	ジャックと豆の木 (S.B.E No.1 世界文庫の絵本)	関屋五十二・責任監修、畠野圭右・絵、関屋五十二・文	世界文庫	ブランゲ文庫
1948	10	○	△	ヴィルヘルム・テル (サクラエホン世界名作絵本)	西山敏夫・文、澤井一三郎・画	東山書房	ブランゲ文庫
1948	11	○	△	嘘つき山羊 (グリム童話)	三浦アンナ・訳・画、グリム・原作	比叡書房	国際児童文学館
1948	11	○	▲	イエズスさま上	桑島啓吉・文、黒澤武之輔・絵	中央出版社	ブランゲ文庫
1948	11	○	▲	イエズスさま下	桑島啓吉・文、黒澤武之輔・絵	中央出版社	ブランゲ文庫
1948	11	○	△	イエス傳	加藤普佐次郎・説明、和田三造・画	朝日新聞東京本社	ブランゲ文庫
1948	12	○	△	アリババと四十人の盗賊 (世界文庫の絵本)	北村寿夫・文、関谷五十二・責任監修、川上四郎・絵	世界文庫	国際児童文学館
1948	12	○	△	おやゆびひめ (サクラエホン世界名作絵本)	北町一郎・文・編集構成、H.C. アンデルセン・原作、山本真津子・絵	東山書房	国際児童文学館
1948	12	○	▲	イエズスさま	桑島啓吉・文、黒澤武之輔・絵	中央出版社	ブランゲ文庫
1948	12	○	△	ガリバー旅行記 (講談社の絵本2)	西条八十・文	大日本雄弁会講談社	ブランゲ文庫
1948	12	○	△	アリババと四十人の盗賊 (S.B.E No.2 世界文庫の絵本)	北村寿夫・文	世界文庫	ブランゲ文庫
1948	12	○	△	イソップ (家庭絵読本第一編)	畠野圭右・画・文	童話教育社	ブランゲ文庫
1948	12	○	△	ヨナ物語	山田稔・作	創世社	ブランゲ文庫
1949	1	○	△	おやゆびたろう (よしすけえほん4)	黒崎義介	文化建設社	ブランゲ文庫
1949	2	○	△	赤ずきんちゃん	中嶋光子・文、須々木博・画	民芸社	ブランゲ文庫
1949	2	○	△	あかずきん (昔ばなし絵本)	佐藤茂・文、加藤まさを・画	国民図書刊行会	ブランゲ文庫
1949	3	○	△	鳥になった王さま (サクラエホン世界名作絵本)	北町一郎・企画編集、西原比呂志・画	東山書房	国際児童文学館
1949	3	○	△	チルチル・ミチル (サクラエホン世界名作絵本)	北町一郎・文・編集構成、長谷川露二・画	東山書房	国際児童文学館
1949	3	○	△	シンデレラ (サクラエホン世界名作絵本)	北町一郎・編集構成、長谷川露二・画	東山書房	国際児童文学館
1949	3	○	△	裸の王様	豊国年亮・絵	榎本書店	ブランゲ文庫
1949	4	●	▲	フリップ物語	ウェズレー・デニス・画と文、櫻沢如一・訳と註	コンパ出版社	国際児童文学館
1949	4	○	△	ピノチオの冒険 (昔ばなし絵本)	柳内達雄・文、永井保・画	国民図書刊行会	ブランゲ文庫
1949	5	?	▲	すばらしい世界へ	マンロー・リーフ・絵と文、秋葉俊彦・訳	創芸社	国際児童文学館
1949	5	○	△	ろばうりのおやく (ひばりのイソップえほん)	おおたじろう・画	株式会社ひばり書房	ブランゲ文庫
1949	5	○	△	森のピノチオ (絵本・人形芝居)	南江治郎・脚色、武井武雄・画	世界文学社	ブランゲ文庫
1949	6	○	△	くまとたびと (ひばりのイソップえほん、5才6才向)	はまのまさお・絵	株式会社ひばり書房	ブランゲ文庫
1949	6	○	△	イソップ名画集 (幼年向)	ギェスターヴ・ドレ・絵、五島謹一・編	小峰書店	ブランゲ文庫
1949	7	●	▲	もじゃもじゃベータ おもしろいはなしとおかしなえ	ドクター・ハインリッヒ・ホフマン・作、ローゼ・レッセル・訳	世界文学社	国際児童文学館
1949	7	●	▲	象ちゃんババアルのおはなし	ジャン・ド・ブリュノフ・作、石郷幹子・訳	世界文学社	国際児童文学館
1949	7	○	△	うさぎとかめ	萩原博・文、林義雄・画	春江堂	ブランゲ文庫
1949	8	○	▲	イソップものがたり (ヌリエ)	おおのみちを・作、西野新泉・装丁・挿絵	中央出版社	ブランゲ文庫
1949	8	○	△	プレーメンのおながし (サクラエホン・グリム童話より)	秋玲二・作	東山書房	ブランゲ文庫
1949	8	○	△	おやゆびひめ (アンデルセンの童話より 幼児用6)	初山滋・画、ほりおつとむ・本文・解説	印刷庁	ブランゲ文庫
1949	9	?	▲	音のはなし (基礎科学教育叢書)	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館

1949	9	○	△	孫悟空〈講談社の絵本〔第2期〕〉	宇野浩二・文、本田庄太郎・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1949	10	○	△	ガリバー旅行記〈講談社の絵本〔第2期〕〉	西条八十・文、吉邨二郎・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1949	10	○	△	インツップ名画集	五島謹一・編、ギュスターヴ・ドレ・挿絵	小峰書店	国際児童文学館
1949	10	?	▲	あつまって生活する動物〈基礎科学教育叢書〉	G. O. ブラウ・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1949	10	○	△	インツップ絵物語〈講談社の絵本〔第2期〕〉	畠野圭右	大日本雄弁会講談社	プランゲ文庫
1949	10	○	△	こびとのくにのガリバー(とびだすえほん)	藤井樹郎・文、竹原聖千・画	信宏社	プランゲ文庫
1949	11	○	△	珍ガリバー	横山隆一・作	新日本教育文化研究所	国際児童文学館
1949	11	○	△	家なき子〈世界の絵本・中級〉	林芙美子・文、須田寿・絵	新潮社	国際児童文学館
1949	12	?	▲	たのしいふゆ〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1949	12	●	△	たくさんのお月さま	ジェイムズ・サーバー・作、光吉夏弥・訳	日米出版社	国際児童文学館
1949	12	?	▲	車のはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1949	12	○	△	孫悟空と八戒〈講談社の絵本〔第2期〕〉	宇野浩二・文、本田庄太郎・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1949	12	○	△	おやゆび姫〈講談社の絵本〔第2期〕〉	松村武雄・著、立野道正・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1949	12	○	△	シンデレラ姫〈講談社の絵本〔第2期〕〉	西条八十・詩、加藤まさを・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1949	12	●	△	ふしぎな500のぼうし	シユース博士・著、大森武男・訳	トッパン	国際子ども図書館
1950	1	○	△	孫悟空 火の山の巻〈講談社の絵本〔第2期〕〉	宇野浩二・文、本田庄太郎・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	1	?	△	ディズニーの白雪姫と七人の小人	大森武男・訳	トッパン	国際児童文学館
1950	1	?	▲	動物の旅〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	1	?	▲	船のはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	2	?	▲	ようもうのはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	3	?	▲	きぬのはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	3	?	▲	わたのはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	3	?	▲	小麦のはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	3	?	▲	さとうのはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	3	?	▲	ゆそうのはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	米のはなし〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修	広島図書	国際児童文学館

1950	4	?	▲	おにわにくるとり〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	おもちゃあそび〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	たのしいはる〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	たのしいなつ〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	たのしいあき〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	?	▲	やくにたつ しょくぶつとどうぶつ〈基礎科学教育叢書〉	G. O. プラウ・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	4	●	△	うさぎのラバット	ロバート・ローソン・作、野上弥生子・訳	小峰書店	国際児童文学館
1950	4	●	△	エブラハム・リンカーン	イングリ・ドオレーア・エドガー・バーリン・ドオレーア・作、進士益太・光吉夏弥・訳	羽田書店	国際児童文学館
1950	4	●	▲	ねむたいライオンの子	イーラ・撮影、マーガレット・ワイス・ブラウン・文、小峰広恵・訳	小峰書店	国際児童文学館
1950	5	○	△	イソップ絵物語〈講談社の絵本 [第2期]〉	畠野圭右・絵、松村武雄・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	6	○	△	世界おとぎばなし うかれバイオリン〈講談社の絵本 [第2期]〉	宇野浩二・文、嶺田弘・絵	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	6	○	△	みつばちの冒険〈世界の絵本・大型版〉	後藤楯根・文、吉岡堅二・絵	新潮社	国際児童文学館
1950	6	●	▲	どんどんお山をおりてゆく	エリス・クレッドル・絵と文、高橋さかえ・訳	律文社	国際児童文学館
1950	6	○	△	スタンレー探検記〈世界の絵本・中型版〉	高橋健二・松坂忠則・共文	新潮社	国際児童文学館
1950	7	?	▲	月の世界〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	7	?	▲	たべもの話〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	7	?	▲	きもの話〈社会科おはなしの本〉	モウド・ピーターシャム、ミスカ・ピーターシャム・共著、杉本直治郎・千代田謙・岡部充男・日本語監修、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	7	○	△	フランダースの犬〈世界の絵本・中型版〉	林美美子・文、初山滋・絵	新潮社	国際児童文学館
1950	7	○	△	家なき子〈講談社の絵本 [第2期]〉	田中良・絵、豊島与志雄・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	8	?	▲	きのは〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	8	○	△	イソップ絵話〈講談社の絵本 [第2期]〉	黒崎義介・絵、八波則吉・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	8	○	△	空中漂流記	ウィリアム・ベース・デュ・ボア・作・挿絵・原画、岩田一男・訳	トッパン	国際児童文学館
1950	8	?	▲	しょくぶつの一年〈基礎科学教育叢書〉	G. O. プラウ・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	10	?	▲	かくれんぼする水〈基礎科学教育叢書〉	B. M. パーカー・著、広島図書・翻訳	広島図書	国際児童文学館
1950	10	?	△	ミッキー・マウス〈ディズニーのまんがえほん〉	Walt Disney	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	10	?	△	ブルート パップ〈ディズニーのまんがえほん〉	Walt Disney	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	10	?	△	ドナルド タック〈ディズニーのまんがえほん〉	Walt Disney	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	10	?	△	七人のこびと〈ディズニーのまんがえほん〉	Walt Disney	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1950	11	(●)	△	うさぎの丘	ロバート・ローソン・著、野上弥生子・訳	小峰書店	国際児童文学館

1950	11	●	△	カモさんおとおり	ロバート・マックロスキイ・作、磯貝瑤子・訳	日米出版社	国際児童文学館
1950	11	○	△	みにくいあひるのこ〈小学生絵本〉	福沢一郎・画	小峰書店	国際児童文学館
1950	11	○	△	アルプスの山の娘〈世界の絵本・中型版〉	林芙美子・文、須田寿・絵	新潮社	国際児童文学館
1951	1	○	△	しろねこひめ	ドルノア・原作	チルドレン社	国際児童文学館
1951	4	○	△	ライオンのめがね〈世界の絵本・中型版〉	シャルル・ウィルドラック・原作、田付たつ子・文、和田義三・絵	新潮社	国際児童文学館
1951	5	?	△	小鹿バンビ〈世界の絵本・大型版〉	フェリックス・ザルテン・原作、ウォルト・ディズニー・スタジオ・絵、菊池重三郎・訳	新潮社	国際児童文学館
1951	5	○	△	アラビヤナイト〈世界の絵本・中型版〉	与田準一ほか・文、茂田井武ほか・絵	新潮社	国際児童文学館
1951	6	○	△	映画絵本ジャングルブック	横山隆一・え・文	四季社	国際児童文学館
1951	9	○	△	ウォルト・ディズニーのバンビ〈世界の絵本・中型版〉	フェリックス・ザルテン・原作、アイデラ・バーネル・編著、ウォルト・ディズニー・スタジオ・絵、菊池重三郎・訳	新潮社	国際児童文学館
1951	10	○	△	カンガルーの子〈世界の絵本・大型版〉	ホーレス・プリスト・写真、草野心平・文	新潮社	国際児童文学館
1951	11	○	△	たからじま〈講談社の絵本〔第2期〕〉	笹鹿彪・絵、久米元一・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1951	11	?	△	せいしよえほん（上巻）	上沢健二・著、上田次郎・表紙、杉山次高・画	キリスト教図書協会	国際児童文学館
1951	12	?	△	せいしよえほん（下巻）	上沢健二・著、上田次郎・表紙、杉山次高・画	キリスト教図書協会	国際児童文学館
1951	12	○	△	小鹿物語ーイヤリングー〈世界の絵本・中型版〉	M・ロウリングズ・原作、吉田甲子太郎・文、小磯良平・絵	新潮社	国際児童文学館
1951	12	○	△	ウォルト・ディズニーのビノキョ〈世界の絵本・大型版〉	村岡花子・訳、ウォルト・ディズニー・スタジオ・絵	新潮社	国際児童文学館
1951	12	○	△	しらゆきひめ〈講談社の一年生文庫〉	長谷川露路・絵、浜田広介・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	2	○	△	おおかみとこやぎ〈講談社の絵本〔第2期〕〉	畠野圭右・絵、八波則吉・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	3	○	△	母をたずねて〈講談社の絵本〔第2期〕〉	松田文雄・絵、宇野浩二・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	3	○	△	三びきのくま〈講談社の一年生文庫〉	畠野圭右・絵、西山敏夫・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	4	○	△	あかずきん（グリム童話）	与田準一・文、上田とし子・画	三十書房	国際児童文学館
1952	11	?	▲	WALT DISNEY'S こぐまのボンゴ〈ディズニーのまんがえほん〉	ディズニー・原作	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	11	?	▲	WALT DISNEY'S ドナルド・ダックのきしゃあそび〈ディズニーのまんがえほん〉	ディズニー・原作	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	11	?	▲	WALT DISNEY'S ふしぎの国のアリス〈ディズニーのまんがえほん〉	ディズニー・原作	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	12	○	△	ピノチオ〈講談社の絵本〔第2期〕〉	耳野野三郎・絵、西山敏夫・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1952	12	○	△	シンデレラ〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1952	12	○	△	ロビンフッドの冒険〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1953	3	?	▲	ウォルト・ディズニーのシンデレラ姫	ウォルト・ディズニー・漫画	国際出版社	国際児童文学館
1953	3	?	△	ウォルト・ディズニーのシンデレラ姫〈世界の絵本・大型版〉	村岡花子・文、ウォルト・ディズニー・スタジオ・絵	新潮社	国際児童文学館
1953	3	○	△	白鳥の王子〈講談社の絵本〔第2期〕〉	高島華宵・絵、浜田広助・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館

1953	3	○	△	ヘンゼルとグレーテル〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1953	5	○	△	ふしぎの国のアリス〈講談社の絵本 [第2期]〉	熊田五郎・絵、西山敏夫・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1953	6	○	△	アラジンとふしぎなランプ〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1953	8	○	△	にんぎょひめ〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1953	8	○	△	ジャングル・ブック〈講談社の絵本 [第2期]〉	梁川剛一・絵、池田宣政・文	大日本雄弁会講談社	国際児童文学館
1953	11	○	△	しらゆきひめ〈トッパンのストーリー・ブック〉	飯沢匡・構成・文、川本喜八郎・人形製作	トッパン	国際児童文学館
1953	11	○	△	ありばばのぼうけん〈小学館の幼年絵本〉	沢田重隆・絵、奈街三郎・文	小学館	国際児童文学館
1953	12	○	△	えばなしいそっふ〈小学館の幼年絵本〉	(作家名・画家名の表記なし)	小学館	国際児童文学館